

琉球大学学術リポジトリ

南西諸島周辺のコシオリエビ科の生物相に関する研究

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学21世紀プログラム 公開日: 2007-07-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大澤, 正幸, Osawa, Masayuki メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/802

大澤 正幸

琉球大学理工学研究科 COE 研究員

南西諸島からは数多くの十脚甲殻類がこれまでに報告されている。しかしながら、沿岸または浅海性の種類がほとんどであり、一般に深海とよばれる大陸棚外縁よりも沖合の 200 m 以深における生物相については知見が乏しい。近年、フランスの国立自然史博物館と科学技術研究局 (IRD) は、フィリピン、インドネシア、南西太平洋海域の深海性動物相に関する調査航海をおこない、採集された標本に基づいた分類学的研究によって非常に多くの未記載種の存在が明らかになっている。このことから、熱帯・亜熱帯海域の深海性動物相は予想以上に高い種多様性を示すことが判明している。

国立科学博物館は、広島大学生物生産学部の豊潮丸、東京大学海洋研究所の淡青丸等の研究船を利用して、「南西諸島における深海性動物相の解明と海洋汚染の調査研究」を 2002 年から 2004 年まで実施した。宮崎県都井岬沖から沖縄島周辺（沖縄舟状海盆を含む）にかけての海域での調査航海をとおして、ドレッジまたはビームトロールを用いて数多くの十脚甲殻類が採集されている。本研究では、調査航海で得られたコシオリエビ科の標本の分類学的精査に基づき、南西諸島周辺の浅海性の種類を含めたコシオリエビ類相について報告する。

調査航海（水深 51–2133 m）で得られた標本は、13 属 50 種の既知種および 6 属 14 種（*Galathea* 属 4 種、*Munida* 属 6 種、*Nanogalathea*, *Neonida*, *Raymunida*, *Sadayoshia* 属それぞれ 1 種）の未記載種を含んでいた。既知種のうち 22 種は日本近海からの新記録である。*Nanogalathea*, *Neonida* 属はこれまでにそれぞれ 1 種のみで構成されており、今回得られた未記載種は、これら 2 属の形態および地理分布に関する情報を新たに加える貴重な発見である。

シンカイコシオリエビ属 *Munidopsis* は、1000 m 以深に生息する十脚甲殻類のうち最も種数の多いグループとして知られている。琉球諸島の西に位置する沖縄舟状海盆（水深 955–2133 m）から採集された標本には 5 既知種が含まれていた。*M. bairdii* (Smith, 1884) はこれまでに北大西洋と東太平洋から知られており、今回得られた標本に基づき、本種は西太平洋にも分布することが判明した。

また、台湾海洋大学と台湾水産試験所によって進められている、台湾周辺の深海動物相に関する調査航海（水深 200–4455 m）をとおして採集されたシンカイコシオリエビ属の標本についても精査する機会を得た。標本は 19 既知種および 8 未記載種を含んでいた。これらの既知種のほとんどが台湾近海からの新記録であるが、南シナ海および東南アジアの太平洋側海域からこれまでに報告されている種類と比較すると、6 種がこの海域からの新記録である。

日本、台湾を含む北西太平洋域における深海動物相に関する研究はまだ緒についたばかりであり、正確な動物相の把握、他の海域の動物相との比較のためには更なる調査を続けてゆく必要がある。